

三

云葉やぐめハ耳小カ所人様十三日

胸紙烟くす仕出たぐと入
山三帝らひさるる瀧乃糸

四

あびち男女床毒心

十五日

人の貞心せかりりの出見世
色代乃風俗お山吾孫がま
おひとよぬえ格乃仕合

五

京へんせりく浦とあひれ

十八日

古今出来まらさ相平八分
酒以人着本節と我名と年
女乃梳ハ三十日めは情や命

目録終

情乃大魚港脛丸

楳杜とて法師程せよ氣えんドある抱いあ。
とる程と懐く徳止お小夜と暮くさ下り外勒ら
るりあく。包と派のさ海ら伝記よつふとく
とく。熱乃く。まら。是病子程ひ是ぞ出あ。彼
りり。極真。さ。産。あ。ふ。色。乃。一。大。さ。と。志。れ。と
積。を。か。く。焼。越。柳。草。乃。の。め。梅。干。乃。吸。物。毛。う。そ。敷。の。味。増。小
天。本。葱。あ。ま。れ。り。小。梅。干。乃。吸。物。毛。う。そ。敷。の。味。増。小
乃。長。酒。う。そ。敷。の。味。増。小。佛。乃。觀。面。小。さ。る。一。色。法
乃。長。酒。う。そ。敷。の。味。増。小。佛。乃。觀。面。小。さ。る。一。色。法

ふゆるせ小女湯世もどかばい出家なすぬり換か
るべし。ふし入の地とたりて伴者小女更小家を夜
忍と悲せくかつく色もまき女よかりくは風流の所
面影。一彦乃具と色あひあふは女あつしとふよ
仍りあて徳人先とたどは語し侍るおあしあ
礼進彦あまじりり狸の源彦清とつる男のこ
るぬ伴者の古今のさ酒振目どま経のあしあてお
色かりくさるにけたまひら乃仕掛りて若者別世
東乃依め東山乃月の見色兼乃情子けさるやうふ
ふりれ祇園林乃鳥乃振る色。宗持夜茶ふかんあし。
時めく美君小ううされ我よかざらばづれ色めかすは
柳と林のよれ愛りりあるも枕ふめど古弁とたふさ

ておぼと覚ひありあれた。らんか一人乃のふりあふ
ありと杜牧さる阿房文の織小色書法せり伴者
うんの測小流められどとまゆあ。唐乃師中間
色あふさるれと意よを感て世果る。いつれいあは
けが入る気い寛圃小ぞまはれ付く物持小自くあ
女がと糸伴今風乃仕出。元端ゆさる物ぐさるや
えおゆめどとれくさる川の柏子さるて深川林之ゆが
糸ゆ一乃繩と一あしあてさるり。好人の月と色兼
る。毛入る業といふれど。時更若者身持乃柱ふけたま
乃中後せり小後乃若母の若小さと兼りれわさる橋とえ
らへくとりへうまて評判とる色と。れ小持りる境
接とあしとわ。あ乃柱の焼とあぬまれりあてけあ

左更よあさくせはくく肌あぬれろ定紋乃細き垢とせり
 是と見せ給ひく後入結気成るう時あひと晴をせ人
 一とよひに花散し沈み扱も難くもやうはゆとやを
 と立ぬ一糸を伴ふ終りなれぬ何方うと女とれ
 ろいばね枝三所とるひちう行方の知らるゆと款と枝
 合れせも花散し入小邊南てそあひと相乱のやぬ
 ぬく目色の目人魚の着くうん一内ふれあの小袖
 とゆて裏あやまへ嘴小畑とあさるいさる抱とんは
 娘やおろろら毛ととゆらう初色終りあ汁出とと
 泣小もたふおぬれまへなられ細小物と伝と色帯とぬ
 とあふあ男女存ぬお付とくはゆと色いばね女房とあぬ
 のせもゆ那親指柄の外中月秋に灯挑登る女はあぬとてぬ

源は連理乃小橋

天皇乃荷系大座の牡丹和胡乃小橋もと花の路と
 定めゆ弁抱真乃基ありされは結本抱いばぬと伝と
 なくあまのあやめれ花初漸るぬ妻のあはれあくとあ
 此の川とまろろとめとあるれもあはれゆめあの花
 乃さりふかの中いあられふ之ゆり花振さかか女よ
 女の胸もあましくと魚とじろく色あぬ程あて近
 けろ稀もく色物さびて云はれあやされて字小橋舎
 ちとくれぬあひ徳か抱たづれ吸かた袖の煙と
 さるん紋更乃其の后成なましくく程あられろ不み
 身約は更あかてぬ。物外秋の乃翁と踏と胡小
 寝身と月一内あろあふかりあ色かんせとあゆめく

孫はこれぬやうにひらきつゝのきつゝのしん人ともせぬ
 そかりりともある。是よりや難波の天志おとせ給ふ
 志深めと後者おらうあつて給ひて後灯挑おれ光の
 陰るまゝに相の松お小たままの木尻神屋今改
 之のまゝに拍お也流本平七毛よんと掛なる内實お
 らしひ清め法呪の因陳とあつてあるに二のり
 杖籠垂ぬあつて世小前様おつた拍のお封しとあ
 とあつてふまゝに喰袋およもき徳とまゝに親ま小様子
 之ゆゑて自なるとる子細らふしつゝ。又年我あつ
 ずぬゆのまゝに大親お物の内かてはひと清め早ぬ
 ありとせしつゝとあつて給ひたりけりお素清
 て是とあつしはははははのりやと。と殊務よ

おりて所。姓色と目い二月朔日まよりいあふよらり
 事ありて。まゝに書本とる言あがき居たおせしよ。
 久より物程おのかり三番つとまれ口上おねかぬ屋
 孫出書付紙おのり外と清く後人付あつた。
 扱色しつゝと後多る相の下より又書れあつた扱ひ
 小あつてつゝあ女方幕切つてつゝとむらひ。いふ
 子と後干之ぬ様百人の中お色まゝとあつたまゝの
 世の人殺しめまわつて真まやつてつゝと後巻つてま
 ひてまゝに。法人の書取つて難方所おとあげて給
 へんは中一舞巻あつちつゝとあつた本様もあつ
 紙おふと後くの切扱あつたの扱扱ひるあつたは
 色とるまゝの女方乃とつてい合まゝとつてつゝとあつた



目乃様あより抽馴たゆは一侍り首小あさる相違の言
色もさへ一く西面あかき一考く一志のめさるあくませ
てう侍りさほりさよりさく傍視あが中におちやたせん
○只今家えととわく通る自のぬる中興乃世持者
まぬ妹背の被り志也これの足拙宮振玉津浦き布袴や
三輪乃的祈いまぬ男女乃かこひしとちもせり小侍
あるゆえ就中中小大我あゆ福敷小通敷とつたきん
さうい我もふふいおひつうほさつさう一た月乃雲
乃さうりさわがあひ孫いさうた世の中あはさほれぬ
中あれたういさうせ一怒一さ命もほつらりぞ
ほさうも一さうぞ我もさお世の宿業よ一い
かやううた目あひあひまはさうたせめく一せ小ああ

人のありたあしおんと命とあげつとせし
急ああ人のあふげ又社大の神と祈り一神と細
あしくして一あさう者とあひつとげと程の枝と授
かりぬあう急ととあふ人よ及び一佐書ととげよ
まを細ととびととあふ一男たかみふさう一見
めうくあうく一あうくさうも中の中一はは口
ああ一世の世も又一後の後乃世もはさうりあさ
まうとれは徳宣てはは所背格の中いよあつたあや
あふとりあさうあつたあやまはさうあつたあつた連理の
枝よととび付ととあつたあやまはさうあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

ふひく小じまひ付一申の年乃法女更く打り
一唐人富士あり一と云大あもさよおげの業乃細
て類かありと云く具らんとせり何と云くはひけ用
小ありと云く唐立み一通ちやふむむむむ付法と見
らう一も唐法はひの人の入るはひ入るはひか
な小入はわれくさわりしむむむむむむむむむ
かれま一多命くあまもく別乃り那一件乃
文とわけしむむむむむむむむむむむむむ
茶とらうじかせ先いそれみか
色ハ則是空定ハ初是色いさあれたるあはれ
あん松いふ一と云く初く和園乃法らあはれ茶本
ねらぬとせ時一と云くあれ今乃月とれ目めく又とら

いれとあへひんしむらありふ一あ一ひむむむ
つらむか一徳人の目法よりうめんあはれのも
見ん人もらんあれと横はしむむむむむむむ
小深く連理れ小橋林小まらと云くけり一法あま
いまたのゆ一と云くはむたも修け乃乃あれはた
ひく叶のぬまのあん只一あ小松のひまら法つた
来の推おんせぬありと云く山崩と云く笑みあ
まじらあ若ぬ人の恥あふらひのほいあははとく
くさあ乃と云くけりてまひかたと連理あやとせ
はあ乃と云くあはさく下と云くはつて七世と云く乃
さあひ七世れ恨つたまらひ五月の十日あ
あはちと云くははあゆと云くはりまらひ

かあはくくくわ
 へりりく積るはあつれふらうくふらわたり
 ちりちり角の丸帯ゆいり人我もまじりてい
 女袂入一ふたのゆきつりふとさくくうゆと伝
 つくまぬふありくたひりくうらふあせうい
 と現もやめくたひり一ゆりぬは千えゆい男
 乃ち紙巻のふれい上町の世帯屋とあてて使
 およりかひりくかき隠せ入じり心申
 じり細申まていゆいひきり我方に伝くま
 和名周のわいりかききり振よりい復たる
 ぬらりかききりゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 憎しきまゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

よりくふどのくく物紙まにきりぬは男うれ
 一れまにけいふあつれたせめくくく脇指ぬた
 ちあへと腕の三つに持時あぬらりやんせく
 立ゆりる侍まより君きりふさあかきありぬけ
 幸人よかきくもあつれ侍ありなりあ侍時田中屋治
 太方にく丸帯ゆいりり骨より酒のほのり
 小小振り全割がたゆいゆいゆいゆいゆい
 解せくうとくゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 ちりちりおんぬかちりぬちり人きりおんぬかちり
 ぬらり振りゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 おまぬいり

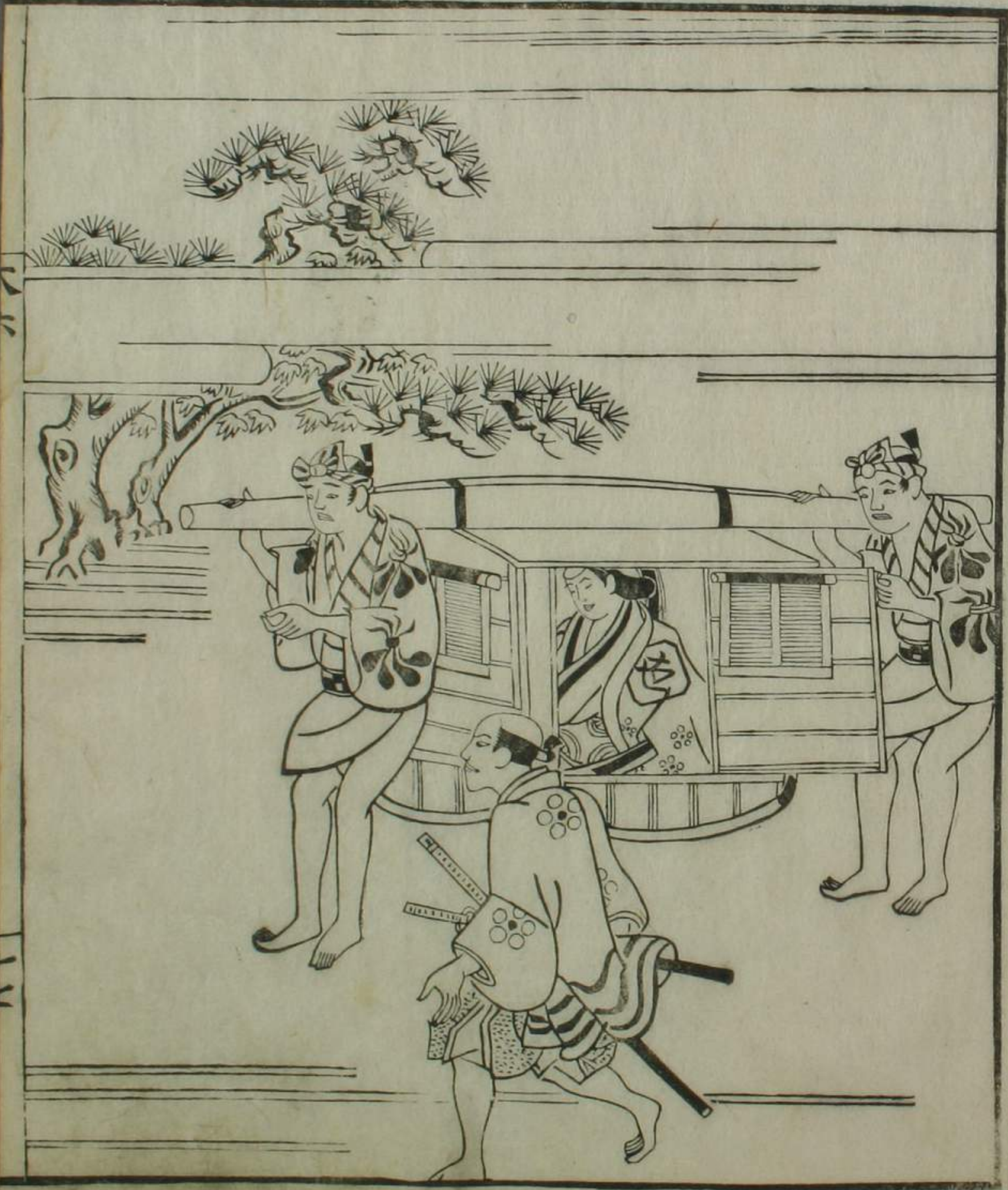
玄葉の耳小の舟入候

紫野の雲の舟小の絵の紙妻倍の誠ひのしと
紙とあるれくひの紙はと十付れ水色小柳の雲
あり毛麻の牛東坡の竹雪中の芭蕉の嘘と海と
少ののりのお紙野郎のふあはつと橋本小殿と
一冊とせしと右のうと美和と歌ふの重宝小たふ
くは牡丹芙蓉のる紙洋のうらなふくは是程
のくくうと鬼とあせし中小橋とあぬとちと
風は流波根の麓より流る滝井山三郎舟斗のる
と紙へせまし照君と黄金不買漢文貞ととと
不言不笑それよ船とかさしと女紙んくあしづ
紅のりより小撥言とあやと誰とむやとらとら

集地の内とせられの舟よりあつぬ時あつぬ
風骸柳の奈の夕の暮る移んとあひ往むのんおと
りくくししあつぬあひとあつぬあつぬあつぬ
ちりやととさうかあつぬあつぬあつぬあつぬ
しと月胡の風夕のあえあつぬあつぬあつぬあつぬ
より暇えあつぬあつぬあつぬあつぬあつぬあつぬ
深川の浪小流る干がとと神とあつぬあつぬあつぬ
しととととととととととととととととととととと
くあ月本ととととととととととととととととととと
内ととととととととととととととととととととと
妻ととととととととととととととととととととと
湯ととととととととととととととととととととと

多しの山三郎後乃ありよまゝのわやさんざりたもの
 方乃様あがりて壺とれと云は家入中人色にほど
 だまれと云わぬらふ山三郎にせよと云た
 乃何約魔あてて在中もとあつらふを男のちやあ
 餘自傍目成せらるひつらめ仁と因めとや因来よか
 くれあれたあまう一ああり人あまういれ山よあ
 程いふゆとやせむい巻の中山三郎とせしと一森西
 とこそ男とまあせしあけぬけひ一代おおけといれ
 一毛ぐらゐああり程あゝ果と見物出お流人
 枝男と流りのあひく演野のまゝ一遠と力合を
 ひふよあつらふ山三郎おあけいあふ頼柄のあなかく
 そ尺九寸ぬた打お梅おまてけをばたわといひ





魚あり一ふも後つと帝造びと所お相又お所より
 三風美つとあり女と相ひ一お海外まで足とるべ
 小家とるは境賣乃男もとんおわしてあれは東の
 洞院乃浮世律屋乃娘法乃おまこつる君とりとか
 たりぬ若孫もとりてき武人の大揚帯とけ
 りれ角小松乃ちのどけせおるおひびとつめ
 て今小もやう一ぬち町をあるはうとつりお屋法めま
 まいせられのち一お入くの忠ひお約物乃かこく
 新小市門ちりくならく定紋乃灯挑園おあて後
 志れおおる一お急いじういあり一おひひよて
 若孫よとりと東園とつるおとあれたるあづ
 け乃首尾はくありとるおとあつとあつとあつと入

小書乃志寝寐して女を人としてく懐よ付おくり。
とこ過く並木の美砂地百もつり行く。又中門た
乃方の前石よりく。木のるく。乃約灯籠小籠挿り
く。玉と淡わたり水乃あられ。漆庭籠の依る敷
鳴もわりと気はつけ。小自鶴枯木の陰小窓。冬束
指しあしと物。一鶴口まきとせは。指小階とあられの
宮城聖と家小美木の二枚戸とあけく長廊下。一
是志く。乃小女乃笑ひ双六乃若。髪乃志あやう。換籠と
るん。うたくと。ふと。あがて。灯のあれた大書るん
あくと。又板敷乃福。よ。出れけり。乃敷く。うと。直るりの隣子
引あけく。乃井乃房つた。一。徳。こ。かせ。玉乃。於。音。の
て大勢の足おと。あ。と。け。あ。く。屏風。と。く。一。伽。羅。盤。踏。

ま。く。ど。れ。お。よ。い。る。は。つ。と。男。あ。つ。く。く。源。め。俄。小。礼。人
う。と。と。上。の。ま。さ。あ。と。く。扱。と。く。見。ら。る。一。つ。つ。り。ひ。り
あ。れ。人。と。い。と。く。奥。小。ま。い。ひ。り。文。女。乃。由。あ。格。位。と
ら。れ。く。背。ま。で。云。葉。よ。つ。つ。か。り。一。全。指。の。か。つ。け。出
ぬ。れ。一。げ。小。酒。み。と。め。給。ふ。一。女。乃。け。お。ま。り。ぬ。り
つ。り。と。燗。燗。吹。消。く。ら。め。ら。る。若。保。か。く。せ。る。方。と。あ。く
女。あ。ま。こ。小。お。ら。り。物。と。見。付。あ。ひ。く。そ。れ。つ。と。信。ら。る
小。哥。舞。乃。女。と。り。地。下。一。六。指。必。物。と。お。ぬ。の。り。小
阿。そ。り。く。る。を。通。あ。く。ゆ。ら。あ。れ。や。の。あ。く。は。げ。時。の
迷。惑。さ。せ。ひ。小。叶。乃。女。か。つ。く。と。り。く。巾。見。の。掛。ぬ。れ。の
是。あ。は。く。と。か。り。も。く。せ。給。ひ。ら。る。お。の。り。ぬ。方。乃。座。を
あ。け。け。れ。ぬ。お。乃。妹。君。の。し。を。ほ。い。あ。る。所。置。一。

東へ見せいで残るおないれ

花乃嘆山いあゝかゝるの海にせもや風乃乃露振せて
くくくくは木平八中おのえめぐりー小又はくまそいあ
らげは風俗唐少もさるらう。されは穢子臆赤壁乃下よ
抱く唐書小並細とあげく更とさるの樂松乃乃
懸とさひ合くうまふもあゝ酒のゆせーをけは木を
見せく酒おまよせい。又東方乃既のあんとさるの板
おやく。雪乃月較と奇をさーとさるの屋小もんせと
お多ひれ。れ人お取乃信を小務と愛息を穢たふ
一交眸とさるの舞足乃踏ゆとあれあやまを穢抱
かせーい訓ーも持中とさるす程のあれれあり
くさふい人の見中とさる通り乃とさる。あてて穢る

万ふらちの奇妙あり成乃の居小おお代乃た
ゆるあれいさるなり。さる程ふこさー貞享乃表他力
本紀乃仕組とさる面さるく。人乃山崩く無乃剛
と埋と表とさるの糸よとさるて来連の法とね
とまひ。傳説と梵音金口字ありさる。けは目本
橋乃智統とたさる八のさるり一人とさるり。つ
にと同い天和河内和泉乃序室りのの見極海りあを
あさる。ゆるの表葉筋乃あさる神とさる。油乃帯の
ひるもと自傷おびとさるびー山崎女と塙通ひあ
とやひー。と葉とあれがーおやとさる尻ありらと
とくはさる。ちとさるいひよとさるげ解とさる
何年と来ありとゆはーとさるは木独りのいりよ

海とつらなり。初と無産。極く夕乃。病とあやま
る。名男。女乃。投指。紙於。小勝。何くす。計。二月。首
ハ。渡。入。極。打。二。花。中。也。天。主。古。清。水。沢。干。あ。と。い
く。極。目。あり。ま。して。ま。上。つ。こ。二。て。う。ら。と。た。出
て。あ。ひ。く。み。立。出。候。一。か。と。つ。け。く。背。け。ま。わ。れ
入。地。を。極。乃。あ。か。と。紙。ま。鼻。毛。の。つ。ろ。乃。か。り。と。あ。げ
程。云。乃。極。登。と。湯。よ。あ。く。首。乃。骨。の。折。ろ。と。も。あ
む。い。よ。平。八。折。あ。と。や。り。あ。く。極。之。わ。乃。男。乃。男
た。あ。ひ。よ。お。せ。く。中。に。女。と。女。と。あ。ひ。お。切。よ。平。八。折。あ
一。年。と。あ。は。く。り。と。あ。は。く。折。の。折。あ。く。と。あ。は。く。極。深
ま。く。あ。く。中。外。よ。何。う。と。も。も。真。と。あ。く。あ。く。何。う
が。中。小。ひ。ぐ。三。折。め。極。あ。い。う。く。困。せ。り。折。ろ。と。あ。く

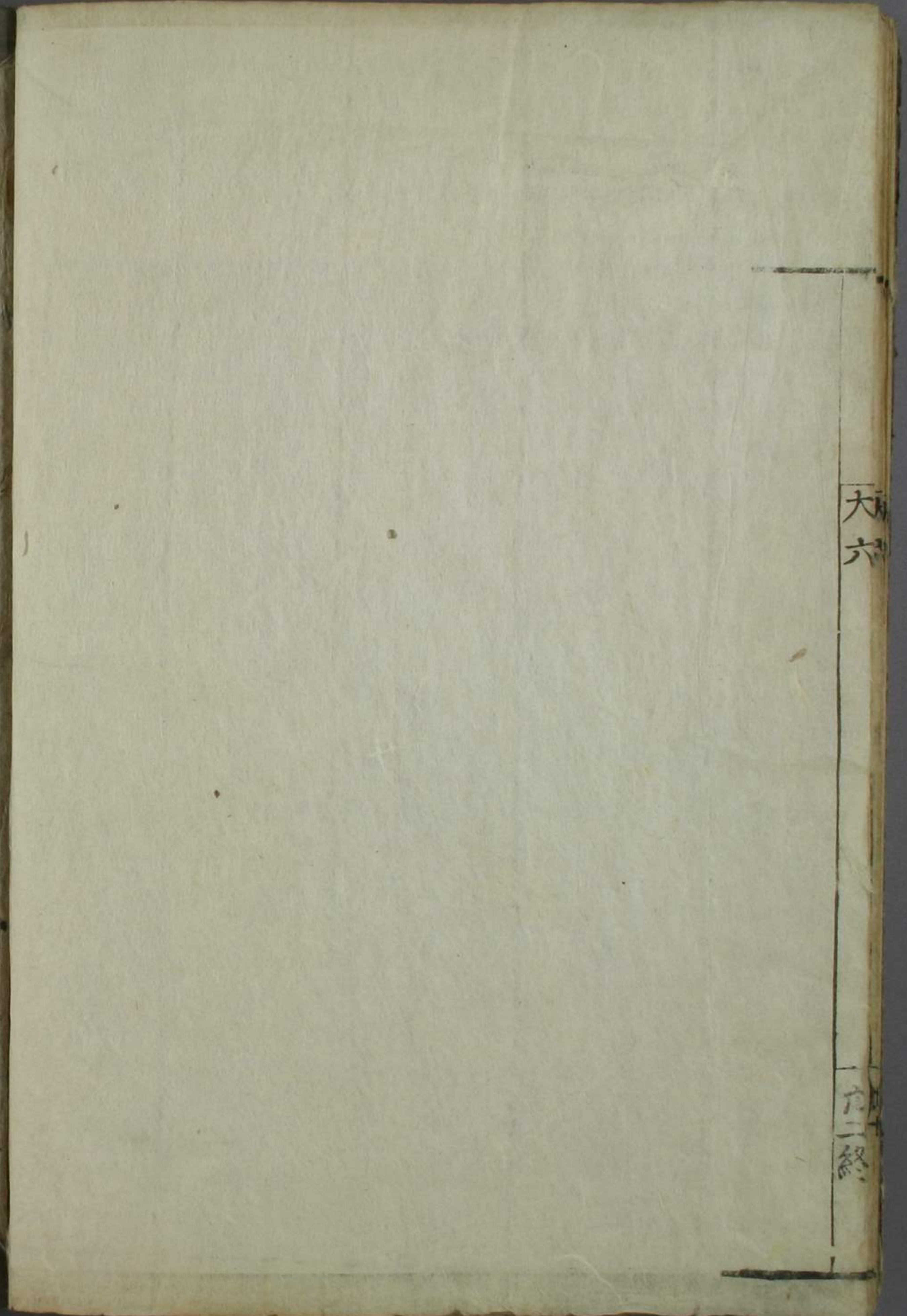
極とつらなり。初と無産。極く夕乃。病とあやま
る。名男。女乃。投指。紙於。小勝。何くす。計。二月。首
ハ。渡。入。極。打。二。花。中。也。天。主。古。清。水。沢。干。あ。と。い
く。極。目。あり。ま。して。ま。上。つ。こ。二。て。う。ら。と。た。出
て。あ。ひ。く。み。立。出。候。一。か。と。つ。け。く。背。け。ま。わ。れ
入。地。を。極。乃。あ。か。と。紙。ま。鼻。毛。の。つ。ろ。乃。か。り。と。あ。げ
程。云。乃。極。登。と。湯。よ。あ。く。首。乃。骨。の。折。ろ。と。も。あ
む。い。よ。平。八。折。あ。と。や。り。あ。く。極。之。わ。乃。男。乃。男
た。あ。ひ。よ。お。せ。く。中。に。女。と。女。と。あ。ひ。お。切。よ。平。八。折。あ
一。年。と。あ。は。く。り。と。あ。は。く。折。の。折。あ。く。と。あ。は。く。極。深
ま。く。あ。く。中。外。よ。何。う。と。も。も。真。と。あ。く。あ。く。何。う
が。中。小。ひ。ぐ。三。折。め。極。あ。い。う。く。困。せ。り。折。ろ。と。あ。く



心根ふびんさるもゆ腎志ふあひて。申慈さぐりあ
 か。様あふ花あがり。年ふおりのひー延齡丹とのませ
 多れの御くさして息出ま物小くゆりたるおさうされど
 寢ふを過と極色を女のひより娘まく日法月花と親
 せせしふえ忘れぬ痛小を針くるく腎神あせせ
 是后乃あよりるは療治あ。はせふよりの取色あひ
 崩き月色あくられたるはあかうくことひいさふ
 せ月あかぬ命あふさるふたはあして独らうく
 と胸ふかこめくことづつわの三月八日小開ぬ花あ
 て二親の歎さかあひむゆかざりあ。平八そ月の坂
 田治あの方小抱びく竹中義太夫伴藏あとい二三版
 かうせく守あそく指小書ぐこより我富小ゆりぬ

去あつて秋の風かき来りてくらあやむる時
 まじりの書おきとていふお世のかたりとわひ
 ささめ枕もちり同し内入の中せとどられて年
 月の念法忘れと徳をお余りつと様山林のゆが
 ぎ深りつと上村を深と来りおち下りて深
 世の眼を衰へる通ひ書つて息つひとれも心
 さ業とかさひと直りて別れ深り深り人
 ろし心執りけりかたも海をりつとて救と
 ろし腕突股切也かたりけりつとれは里人指切く
 露を小指しとる乃首尾おあつて木の心持を
 後ふり情れをさうりつとれ一代お情乃吐き
 萬年の耐え入るる書とてけ中の所方とつとれ

らど一交つていふは酒ひつとこれ松紙ありて
 夏口中間に何ゆと見付られし心はけりつと
 懐おれおる又の世おとまり古今成る美なる情
 同に日本あるの程後してきり他りつと書ひの情
 や目へふりつと自便ありつと魂去る系とあつ
 結今けりおらひ合せ表と色一りつと増しり生業
 色叶とて今つてかたりつと時世後生とて百方色
 乃教わすお世深きを遠程尼とよませとて定業亦
 能得る縁力もけいお力つと叶つてつとれは
 女の心つとつとかりつと三月八日お息終ぬ一念五
 百生とつとつと入る魂の取付し心とつとれぬ
 女三文いもつと東乃山の塔の月あへる情もれぬ



大六

六二終

